

管内月間火山概況（平成 21 年 5 月）

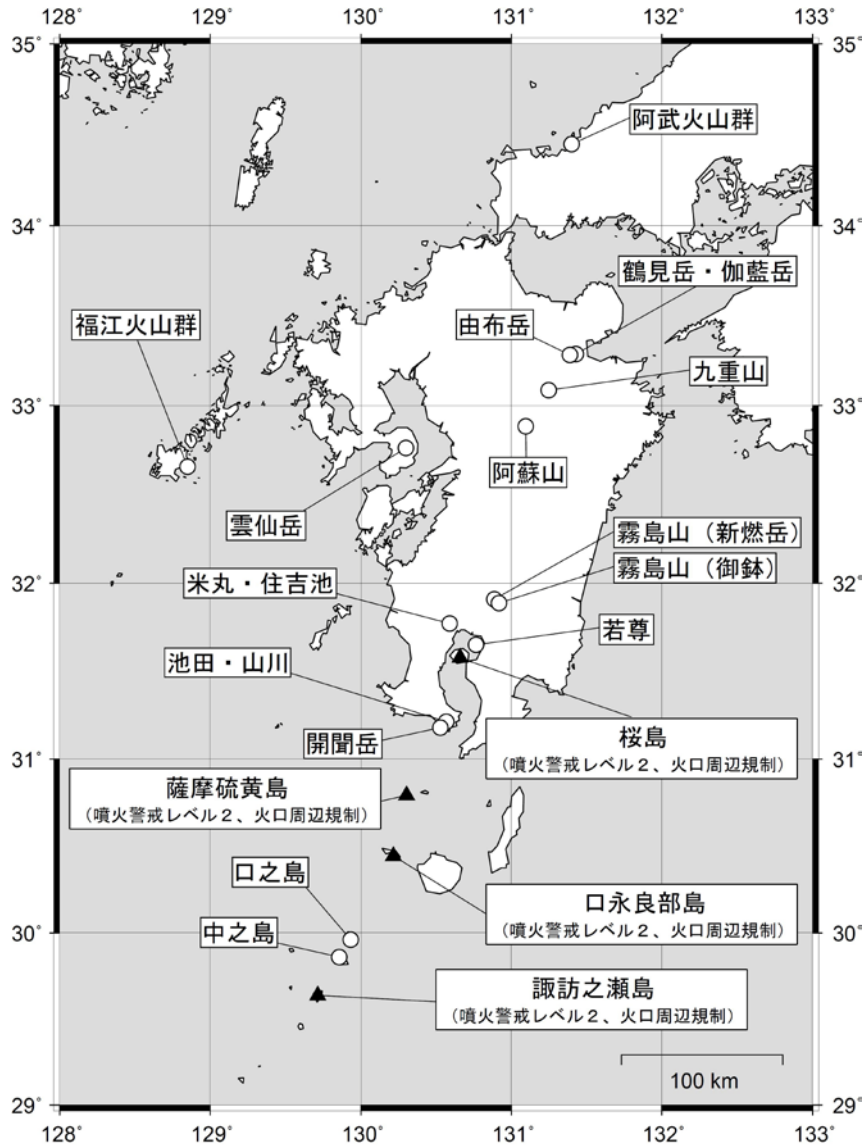
福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（5月31日現在）

火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）：桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島

噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）

噴火予報（平常）：阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



凡例
▲：噴火警報発表中の火山 ○：その他の火山

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ (<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 6 月分）は平成 21 年 7 月 7 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

19日に実施した現地調査では、監視所横の駐車場（中岳第一火口の南西約200m）においてごく微量の降灰を確認しました。また、南側火口壁の噴気孔で火炎現象及び赤熱現象を引き続き観測しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出がみられることから、火口内及びその周辺では火山灰の噴出等に警戒が必要です。火口周辺では火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口外の西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰等の噴出に警戒が必要です。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

昭和火口では、噴火が8回発生し、そのうちの1回が爆発的噴火でした。南岳山頂火口では、噴火が1回発生しました。

30日20時23分に発生した昭和火口の爆発的噴火では、大きな噴石が5合目（昭和火口から500～800m）まで達しました。31日に行なった降灰調査では、桜島黒神町から宮崎県串間市の範囲で降灰を確認しました。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良（あいら）カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が継続していますが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていません。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられますので今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び小さな噴石（火山れき）にも注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態で推移しました。

火山性地震は3月下旬以降やや多い状態が続いています。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び小さな噴石にも注意が必要です。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

噴煙活動はやや活発な状態で推移しました。

火山性微動は4月から増加していましたが、5月中旬をピークに減少しています。

全磁力繰り返し観測では、新岳火口直下での熱的な高まりを示すと考えられる変化が引き続き認められました。

二酸化硫黄の放出量は2008年12月をピークに減少しています。

GPSによる連続観測では、2008年9月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が2月以降鈍化しています。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び小さな噴石にも注意が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳^{おたけ}火口では、小規模な噴火が断続的に発生し、そのうちの 41 回が爆発的噴火でした。諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しています。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び小さな噴石にも注意が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。